



CHEON Ho-seong

千 鎬誠 氏

【Profile】

2005年3月 教育発達科学研究科 博士課程後期課程満期退学。

2005年10月 博士号取得。

全州教育大学校 教授。

韓国で長く教員を勤め、2000年9月に日本の教育制度や文化を学ぶ教員研修留学生プログラムに参加しました。研究終了後も日本で研究したいと考え、大学院に入学し、3年間で博士論文を書き上げ、博士号を取得しました。

2012年取材

大学院ではどんなことを学びましたか？

「日本で教育学を学び、韓国の教育改善に役立ちたい」と思い、2000年に教員研修留学生プログラムで来日しました。半年間、名古屋大学で教育学の講義を受け、学校にも足を運びました。プログラムの中で、特に興味をもったのは教育方法学の授業分析です。授業の精緻な分析から改善へとつなげる手法は韓国にはないものでした。授業分析をもっと学びたい気持ちを抑えられず、大学院へ進学する決意をしました。

研究では、愛知県の宮崎小学校を調査地にしました。宮崎小学校の特徴は、学校だけでなく地域社会も一緒に子どもを育てようとする風土です。愛鳥活動や田植えなど、学校外で学ぶ宮崎小学校の授業は刺激的でした。多様な授業実践を体感できる、とても充実した3年間だったと思っています。

大学院での学びで一番印象深かったことを教えてください。

調査させていただいた宮崎小学校は、学校だけでなく地域を巻き込んだ授業実践を行っています。調査の際、地域の人の温かさにも触れることができました。駅で学校へのバスを待っていると、通りがかりの車が学校まで送ってくれたり、夜遅くまで調査していると泊めてくださったお宅もありました。そんな、たくさんの方の優しさのおかげで博士号を取ることができたと思っています。

現在の仕事について教えてください。

韓国の大学で、授業分析、社会科教育、多文化教育などを教えています。韓国で授業分析の講義をしたのは私が初めてです。授業分析に関する著書も出版しました。また、授業分析を実践しようとする教員のサポートもしようと、勉強会で講師やアドバイザーも務めています。そうした勉強会では、「子どもたちが楽しめる学校作りをしよう」と話しています。子どもが好奇心を持って学べる授業を、韓国でも広めたいです。

大学での経験は仕事で活かされていますか？

名古屋大学で学んだこと、宮崎小学校で見たもの全てが、今の私の礎になっています。授業分析と出会わなければ、研究者としての道は開きませんでした。今、韓国の教育大学で教鞭をとれているのも、日本での経験を評価していただけたからです。韓国の教育現場を改善する教師を育てるために、日本で得た知識を活用しています。